

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第239号 2014年2月19日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2014



写真：滝脇 綾(生活科学部人間生活学科2年)

## 新しい扉を ともに開く

### CONTENTS

#### TOPICS

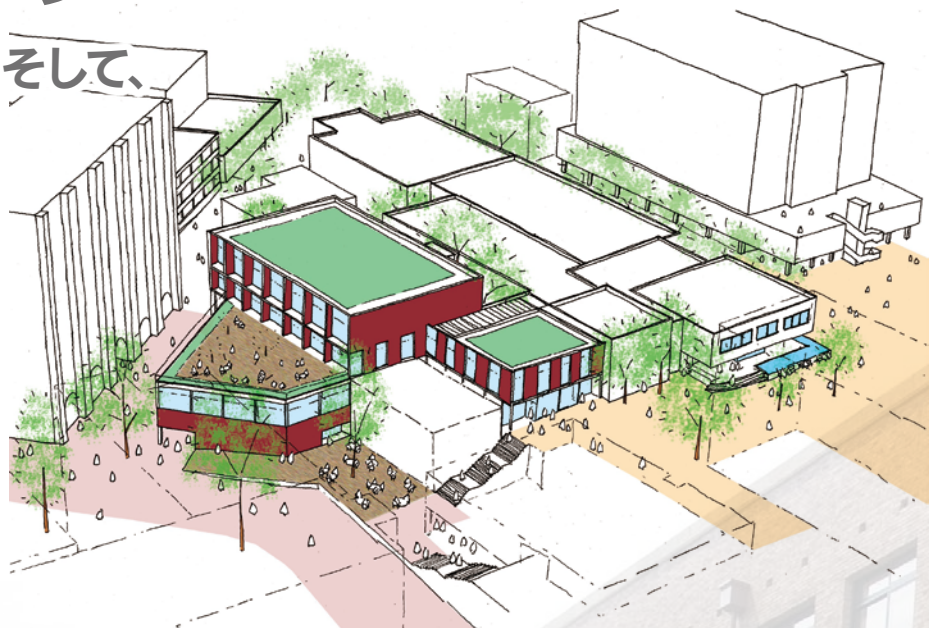
- |  |   |
|--|---|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2<br>創立140周年に向けて、そして、さらにその先へ。      | 附属学校園からのお知らせ…………… 7-8   |
| 学生のアクティビティ…………… 3-4                                  | キャンパス点描…………… 9-10   |
| 教員紹介…………… 5<br>● 加納 なおみ先生<br>(人間文化創成科学研究科文化科学系)      | ● 第64回徽音祭を開催いたしました。<br>● 「平成25年度 OGと在校生との交流会—<br>face-to-faceで語ろう—」を開催しました。<br>● 平成25年度グローバル人材育成推進事業<br>「グローバル人材育成フォーラム」を本学で開催<br>しました。 |
| 卒業生紹介 …………… 6<br>● 石 暁文さん<br>(人間文化創成科学研究科日本語教育コース修了) |   |



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 学長からのメッセージ

創立140周年に向けて、そして、  
さらにその先へ。



新図書館構想 (本イラストは、国立大学法人お茶の水女子大学に帰属します。)

お茶の水女子大学は、来年2015年に創立140周年を迎えます。

その前年に当たる2014年は、本学の豊かな伝統を踏まえ、未来に向けた新たな出発の年にしたいと考えています。

日本で最初の女子師範学校である東京女子師範学校が創立したのは今から139年前、1875年(明治8年)のことでした。

その後、東京師範学校女子部(1885年)、高等師範学校女子部(1886年)、東京女子高等師範学校(1908年)と改称しながらも、創設の地である現在の文京区湯島、つまり「御茶ノ水」で、優れた女子高等教育を実践し続けてきました。

女子師範学校設置の意図は、「女子の教育が男子と優劣の差が生じることのないよう女子師範学校を設ける」(注)でしたが、このようにして設置された教育は、新たな道を自ら拓く先進的な女性を数多く社会に送り出してきました。

卒業生の中には新たに学校を創設した人も多く、また、日本で最初の女性理学博士や農学博士となった研究者もいます。

創設の地である御茶ノ水から現在の大塚に移転するに至ったのは、1923年の関東大震災で校舎を焼失したことに起因したのは改めて記すまでもないことですが、震災の翌年には、同窓会である桜蔭会が新たな女子教育機関として桜蔭学園を設立しています。このことは、卒業生の類稀な行動力と先見性の証しのように思われます。

現在のキャンパスがある大塚の地に移転したのは震災の9年後1932年でした。

大学本館はこの時に建設されましたが、いまなおこの建物は本学の教育を象徴しています。

大学講堂「徽音堂」は、建設当時と変わることなく毎年新たな学生を迎え、社会へと送り出す重要な空間であり、また、附属学校の全ての児童生徒にとっても、学校生活の思い出を紡ぐ空間であり続けています。

東京女子高等師範学校は1949年に新制大学お茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部が設置され、学部改組によって、文教育学部、理学部、家政学部の三学部となり、その後、相次いで家政学、理学、人文科学の大学院修士課程が設置されて、教育の高度化が進みました。

本学に大学院人間文化研究科(博士課程)が新設されたのは1976年でした。

人間文化研究科設置当時の概要には次のように記されています。

「本研究科は、学生が専攻をより深化しつつ、それを基軸に開拓する学際的な研究を期待している」

「学生が自らを学究として自己育成し、自立できる研究者に成長していく環境として、本研究科は、この方向に学問の世界の新しい扉をともに開こうとする学生を歓迎する」

「深化」、「学際」、「自己育成」はこの大学院の教育研究の特色であり、それは「学問の世界の新しい扉をともに開く」ことを目指しています。

(注)これは、文部少輔による太政大臣宛設立建議書(明治7年1月)を受けて、木戸孝允(文部卿)の布達(明治7年3月)として記されたものです。また、木戸孝允卿の肖像画が、本学元学外理事和田昭允先生から、寄贈され、本学歴史資料館で所蔵しています。

そして、この姿勢は現在、学士課程から博士課程までの教育研究の特色ともなっています。

大学運営上の大きな転換期は2004年の法人化でした。法人化によって、国立大学は経営の観点を導入し、学長のリーダーシップの下で目標を設定し、大学の独自性を発揮して運営に当たることが求められるようになりました。そして、目標がどれだけ達成されたかが評価されています。

お茶の水女子大学は、法人化の第一期中期目標を設定した際に、大学の使命を次のように掲げました。

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。」

2004年から2009年までの第一期の中期目標期間の6年間の評価は、組織改革や競争的資金の獲得によって、他の大学に比べて極めて高いものでした。

今年と来年は、第二期中期目標期間の終盤の2年であり、第二期中期目標期間の最終年である2015年が本学創立140周年に当たります。この点でも140周年は、本学にとって大きな節目の年といえます。

今特に大学改革が重要な課題になっていますが、本学では、学士課程改革に力を入れてきました。それは、新たなリベラルアーツ教育である「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」と本学独自の専門教育「複数プログラム選択履修制度」です。

こうした教育改革に加え、学生支援の多面的な取り組みも、国立大学のみならず公立私立の大学からも注目され評価されてきました。それは、附属図書館、新学生寮、そして奨学金制度などです。

附属図書館と新学生寮は「共に在ること」を共通理念として整備しました。国内の大学に先んじて整備したラーニング・コモンズ(2007年)は、「共に学び、共に成長する」場として、また、新たな学生寮お茶大SCC(2011年入寮開始)は、「共に住まい、共に学び、共に成長する」場として機能しています。

さらに、予約型奨学金「みがかずば奨学金」も国立大学の先進的な制度として注目されました。

そして何より国立の女子大学として、グローバルに活躍する女性リーダーの育成と男女共同参画の取り組みを強化してまいりました。

学士課程から大学院課程までのリーダーシップ養成プログラムや女性研究者支援のための制度を新設し、他機関との連携も拡大させています。

他大学で女性支援活動の中核となっている卒業生も多く、とくに理系の女性研究者に本学出身者の割合が高いことは、お茶の水女子大学の教育の成果に違いないと他大学から注目されていますが、昨年、理工系女性リーダー育成を目的とする「博士課程教育リーディングプログラム」が採択されました。

一昨年は、文部科学省のグローバル人材育成推進事業の実施機関となり、全学的なグローバル化に取り組んでいます。特に、学生の海外留学を促進するために、2014年度からは他大学に先駆けて四学期制を導入することにしました。

これらの取り組みを核として、これまで以上にグローバルな視点をもって活躍する女性リーダーの育成に努めてゆきたいと考えています。

こうしたこれまでの本学の特色ある取り組みを活かし、140周年を記念する新たな事業も開始しました。

その一つに、新図書館構想があります。この構想のコンセプトは「知の創造、交流、循環」です。

現在、大学教育にはアクティブラーニングが重要であるといわれていますが、優れた学生と教員による高度な教育体制を実現してきたお茶の水女子大学では、アクティブラーニングから一歩進めてクリエイティブなラーニングを実現する場としての図書館を構想しています。

2014年は、140周年に向けた、そしてさらに未来に向けた取り組みの年にしたいと考えています。

新しい年が実り多い年となりますように。

2014年 春  
学長 羽入 佐和子



学長からのメッセージ  
創立140周年に向けて、そして、さらにその先へ。

# 学生のアクティビティ

今号の「学生のActivity」は「お茶大生によるお茶大生紹介」！ たった3つの学部なのによく知らない、隣の学科だけど何を勉強しているのか分からない、どんな授業をどんな人が受けているの？ そんなお茶大生の疑問を、お茶大生を通じて解決します！



生活科学部人間生活学科生活文化学講座3年

## 我喜屋 早織 GAKIYA SAORI

趣味：裁縫とお菓子作り

サークル：百人一首同好会

好きな言葉：「年を重ねただけで人は老いない 夢を失ったとき はじめて老いる」

(Samuel Ullman 作、新井満訳「青春とは」より)

### —— 生活文化学講座に進んだ理由は？

中学生の頃に、ある本を読んで服飾史の勉強がしたいと思うようになりました。その本を書いた徳井淑子先生がたまたまお茶大にいらっしゃる方で、徳井先生のもとで学びたいと思い、お茶大を受験し、生活文化学講座に進みました。

### —— 生活文化学講座では、どんな勉強をしている人がいるのでしょうか？

服に関心のある人が多い気がしますが、もちろんそれだけではないですね。人間の生活の文化について様々なアプローチから学べるのが生活文化学講座なので、生活文化に関わることなら色々なことが学べます。言ってしまうと何でもありですね。文化人類学に興味があって、文教育学部の授業も多数履修している学生もいます。幼児教育に興味を持っている学生もいますし、ダブルスクールで服飾を学んでいる先輩もいます。他にも学芸員や社会教育主事の資格取得を目指している学生も。この講座に決めた理由が、1年時の比較文化学の授業で鈴木先生が盆栽をやっていたのが一番記憶に残ったから、という方もいました。本当に十人十色という感じです。先生は4人と少ないですが、個性的な先生ばかりで、とてもユニークな講座です。

### —— 授業がない時間など、自由な時間にはどんなことをしているのですか？

以前はよく図書館のソファで寝ていたのですが(笑)、この夏はサークルで、大学連盟が運営する学生大会の競技委員長を、所属する百人一首同好会では30周年記念大会の会場チーフを任されていたので、大会準備などで忙しかったです。ちなみに30周年大会のマスコットキャラクターの「こまちちゃん」は私がデザインしました。ちよっと自慢です。

普段は、裁縫やお菓子作りが好きなので、小物を作ったり人形や洋服を作ったりしています。自分の服を作ることもあります。お菓子作りはストレス発散ですね。なぜか作るとスッキリするんです。

### —— 最後に受験生へメッセージはありますか？

大学は本当に楽しいところです。自分次第でいくらでも見聞が広がられるし、その環境が整っている場所だと思います。学生のうちの特典もいっぱいあって。たとえば、社会人になったらお金を払わなきゃ聞けないような講演会も無料で聞けたりします。こんなに時間がいっぱいあるのも本当に今のうちだけ、とよく先輩方に言われますが、その通りだと思います。休みが長いので長期の旅行にも気軽に行けます。なので、結論としては色々な所に行って、学んで、思いっきり楽しみましょう！ということですね。そして少しでも興味があればぜひ生活文化学講座へいらしてくださいね。お待ちしております。

## 学科の人に聞いてみました！ 我喜屋さんはどんな人？

喜ばせ上手な人です。自分の周囲の人は何に喜ぶのか、どんな人なのかをしっかりと見ていて、随分昔に話したささいなことでも、彼女はしっかりと記憶してくれています。更に、唐突に手作りのお菓子をプレゼントしてくれることもあり、良い意味で驚かされています。また、小さな日常の疑問に詳しい物知りさんでもあり、いつも新鮮な話題を提供してくれて、一緒にいて飽きない人です。(生活文化学講座Kさん)

一言でいうと頑張り屋さんだと思います。落ち着いてしっかりしているようにみえるけど、方向音痴気味でよく道に迷っていたり、誰かのために夜中にケーキを作っていたり。根をつめるタイプの頑張り屋さんで、たまに寝不足で現れて心配になるので、自分の身体にもっと気をつけてほしいです。あと、メイクやお洋服の知識が物凄いで、何かと相談に乗ってもらっています！クマ隠しのお化粧テクニックなんかも教えてもらいました。(発達臨床心理学講座Kさん)

## ピックアップ アクティビティ

# 授業 — 「服飾美学各論」

我喜屋さんも履修している、金曜5・6時限の服飾美学各論の授業を取材しました。担当されている生活文化学講座の難波知子先生に、この授業について聞いてみました。

### — 服飾美学各論はどんな授業ですか？

この授業では、明治以降に学校制服がどのように成立・普及してきたのか、具体的な事例を紹介しながら、時代背景と制服との関わりや制服をめぐって形成される文化について考えています。その中で、今年は「明治の女学生を体験する」という実習を試みました。

### — どんな実習ですか？

明治の女学生たちの制服である「袴」を着て、歩いたり走ったり、階段を上り下りしたり、自転車に乗ったり、ラジオ体操やバスケットボールなどの運動をしてもらったりして、着物や洋服との違いを感じてもらった実習です。



「だるまさんがころんだ」

袴を穿くようになって、当時の女学生たちはより活発に運動できたと言われてはいますが、実際はどうだったのか検証してみたいと思って始めました。洋服の生活に慣れた私たちの身体が、袴や着物にどのような不自由さを感じるのか、学生のみなさんに考えてもらいたいと思っています。

また、この授業を履修する学生にも、授業について聞いてみました。

### — この授業についてどう思いますか？

和服（袴ならびに着物）を身につけて様々な動きを体験することによって身をもって和服の特性を学ぶことができました。また、先生のご指導のもと、なかなか習う機会のない着付けを勉強することができたことも大変ためになったと思います。(Uさん)

私は袴で自転車に乗ったのですが、長く広い裾でも意外と乗りやすく、驚きました。明治や大正時代にタイムスリップしたようで、当時の女学生の気分を味わうことができました。(Nさん)



袴でも結構動けます



バスケットボール



マスコットキャラクター

# サークル — 百人一首同好会

我喜屋さんが所属する百人一首同好会について、取材をさせていただきました。ここで行われているのは「競技かるた」。「豊の上の格闘技」と形容される競技かるたは、手に汗握る静かで激しい真剣勝負。優雅なイメージとは裏腹に、試合が始まると緊迫した空気が張り詰める…そんな競技かるたサークルが百人一首同好会です。

### — 活動内容と、活動日を教えてください。

競技かるたの練習は、月・火・木・金・土の週5回、お茶大・東京大学の施設や文京区内の施設を利用して行っています。

### — どのくらいの規模で活動しているのですか？

お茶大や東京大学の学生が中心のインカレ同好会で、現役の学生は50名ほど所属しています。大学を卒業してからも会員であることは可能で、会費を払って活動に参加している人は150人ほどいます。練習日がたくさんあること、練習時間が夜であることもあつてか、社会人の方にも参加してもらっています。



お茶大和室での練習風景

### — 競技かるたの魅力はどんなところですか？

老若男女問わず、平等に戦えるところです。幅広い世代の人が関わっている競技なので、様々な人達と交流できるのも魅力かもしれませんね。

### — 全くやったことない私でもできますか？

はい。7～8割は大学から始めているので大丈夫ですよ。大学の途中から入会する人もいるので問題ありません。百人一首同好会ではいつでも新入生を歓迎します。興味のある人は「東大かるた会」で検索してみてください。もちろん、経験者の方もwelcomeです！お茶大生も多くの大会で活躍しており、2013年春の大会ではお茶大でチーム出場し、優勝しました。

取材をしたこの日は、卒業される方への色紙を現役生が書く特別な日。「ケーキ練」と呼ばれ、普段のかるたの緊迫感とは違い、にぎやかな空気の中、ケーキやお菓子をつつきながら皆で色紙を書いていました。この日のケーキは、なんと全て我喜屋さんの手作り！趣味の域を超えた力作揃いです。皆さん、競技のあとの甘いひと時を楽しんでいました。



ショートケーキにツリー型の抹茶ケーキ、どちらも美味しそう！

### 編集後記

いかがでしたか？ 初の企画で戸惑うことも多くありましたが、学生を通じて学内のことを知る良い機会になれば、と思います。(生活科学部3年 児玉千春)

取材を通して今まで知らなかったお茶大について知ることが出来て、良い経験になりました。(理学部2年 渡邊 晶子)

お料理とお菓子作りが得意で、とても器用な人です。好きなこと一途で、好きなことの極めるレベルが高い！よくお手製の美味しいお料理やお菓子を振る舞ってくれます。私のお気に入りヴィンソワーズです♪ ちなみに、所属する百人一首同好会の活動にも熱心で、競技かるたもA級です！これすごいです。そんな人です、早織ちゃんって。(生活社会科学講座Tさん)

## 学生のアクティビティ

# 教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科文化科学系助教の加納なおみ先生をご紹介します。  
加納先生は、大学院では比較社会文化学専攻日本語教育コースにご所属で、学部では日本語教育副専攻をご担当です。

## 多言語多文化社会で 生き抜くために

*Kano Naomi*  
加納 なおみ



### Q ご出身、ご経歴などについて 教えてください

東京の大田区です。日本語教育には高校生の頃から関心がありましたが、当時は大学で日本語教育を学べる所はほとんどなく、津田塾大学の国際関係学科に進学しました。

### Q 長い間、海外生活を 送られたのですよね？

夫の海外転勤で、シンガポールに7年、アメリカのニューヨークに8年いました。大学卒業後、一般企業への就職を経て、日本語教師養成課程を修了した直後、夫がシンガポールに転勤することになりました。シンガポールでは、日本語教師として私も仕事をすることができて本当に幸運でした。

多言語多文化社会であるシンガポールで働いているうちにもっと勉強したくなり、英語教育のディプロマ・コースに入りました。日本人は私一人で、東南アジアの文化的な多様性を同級生から学び、視野を広められました。この経験はその後の自分に、非常に影響を与えていると思います。帰国後、シカゴ大学日本校で修士（哲学・人文学）を取得、仕事を再開したところでニューヨークに転勤になり、コロンビア大学教育学大学院に入って2つ目の修士（教育学）を取り、そのまま博士課程に入り、去年修了しました。

### Q 海外では、仕事・勉強 だけでなく子育ても？

シンガポールで勉強を終えた後、現地で長男を出産しました。夫は仕事で忙しく、当時はほとんどあてになりませんでしたので、産後4か月で仕事に復帰する際には、近くに住むイギリス人女性やインド人女性たちが息子を預かってくれて、なんとか乗り切りました。ニューヨーク時代は、近所の日本人家族と仲良くなって、お互いの子どもを預け合っていました。

息子は、教育言語も変わる国際間の移動で文化的にも生まれ、大変な面もあったと思います。国際的に移動する子どもたちや家族への共感や理解、また彼らが抱える様々な問題への尽きない興味が私の研究の原点の一つになっています。

### Q 現在の研究内容について 教えてください

私の研究の柱は2つあり、一つはリテラシー教育、もう一つはバイリンガル教育です。これらの分野に興味を持ったのは、シンガポールのインターナショナルスクールで日本人高校生にアカデミックライティングを教え始めた時、教え方が全くわからなかったことがきっかけでした。その後、日本の大学で日本人への日本語アカデミックライティングの指導に関わった後、ニューヨークに渡り、日本

語・英語ともにライティングの経験が圧倒的に少なく苦勞している多くの日本人中・高校生を目の当たりにしたことで、リテラシー教育とバイリンガル教育をつなげて研究するようになりました。

多言語化が進む日本の社会において、多言語話者がどのように日常的に言語を使っているか、どのように言語を使って考えたり、文章を書いたりしているか、というような言語使用の実態を多くの人に理解してもらえようという研究を進めていきたいと考えています。

### Q お茶大の印象、学生に向けて のメッセージをお願いします

お茶大生はとてもまじめで勉強熱心、という印象を持っています。優秀な卒業生の方たちと、海外も含めあちこちで多く出会い、お茶大の底力を実感しています。皆さんも、これから国内外を問わず、様々な場所で活躍していくことと思います。好奇心をもって異文化を楽しみ、互いの違いの背景を理解し合うことで、他者を尊重し、自己を深める体験を積み重ねてください。

文責：西川 朋美  
(大学院人間文化創成科学研究科  
文化科学系助教)

# 卒業生紹介

## 日本での学びをいつか母国で!

### Seki Gyobun 石 暁文

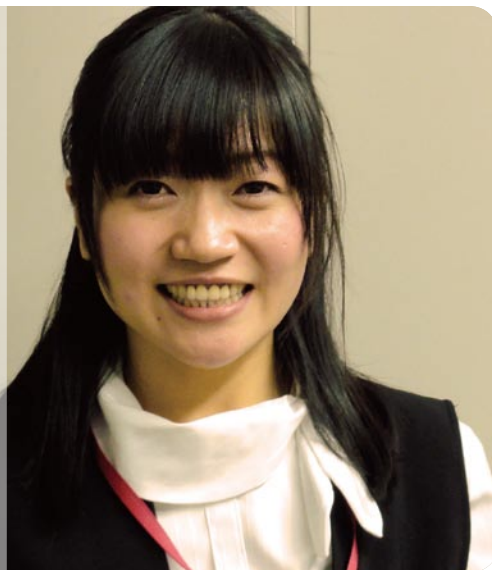
お茶大で学ぶ留学生は院生を中心として世界22カ国200名を超える。

卒業後は帰国し研究者の道を歩む人が多い一方で、日本で就職し母国との架け橋をめざして働く人も増えている。

今回初の留学生OGインタビューでは、そんなひとり、石 暁文さんを名古屋にお訪ねした。

### イオンリテール(株) 東海カンパニー 人事教育部

2012年お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻日本語教育コース修了。  
2012年イオンリテール(株)入社。  
現在は同社東海カンパニー人事教育部にて人事・採用を担当。



### 半年の約束が10年に

石 暁文さんが生まれ故郷の中国福建省から日本にやってきて10年がたつ。きっかけは3年ぶりに日本から戻った従妹の変化だった。「礼儀正しく、考え方もしっかりして別人になっていました」。従妹をこんな風に変えた日本という国に行ってみたい! 渋る両親を説き伏せ、半年間の約束で石さんは旅立った…

結局、石さんは地元の大学を中退し、両国にある日本語学校で本格的に勉強を始めた。麗澤大学の日本語学科を卒業し、お茶大の修士課程に進む頃には、博士号を取得し中国で日本語教師になる夢が膨らんでいた。

そんな石さんの気持ちが変わり始めたのは、「ロータリー米山記念奨学金」の奨学生として毎月の例会に参加し、スポンサーであるロータリー会員との交流を通してだった。「学んだ日本語を日本の企業でいかせないだろうかと思うようになりました」。留学生としての異国での経験から、「日本人と外国人の社員間で文化や価値観の違いから生じる摩擦を解決する手助けができないだろうか」と考えた石さんに、アルバイト先での経験も後押しした。奨学金のおかげで、生活費のためだけでなく興味のある職種を自由に選べた。そのなかで、「接客や人と関わる仕事が好きだ」と実感していた。石さんは両親に電話で伝えた。「大学、大学院と日本の奨学金や学費免除の恩恵を受けた。そのおかげで今がある。恩返しをしたい。日系企業に入って日本社会の一員として頑張る」。こうして、石さんは国内の日本人学生と同じ土俵で「就活」をスタートさせた。

### 「おもてなし」の心を伝える

2012年春、修士課程を終えた石さんは、晴

れて志望企業だったイオンリテール株式会社に入社。1ヶ月の研修後、岐阜県のイオン各務原店で紳士衣料の販売部署に配属された。従業員560人。唯一の留学生。見知らぬ土地…普通なら、めげそうな環境で、石さんは「新入社員の自分に何ができるか」を考えた。「挨拶、元気、熱意なら示せると思いました」。入社1ヶ月後に行われた従業員同士の投票による「笑顔のコンクール」第1位に選ばれたのはなんと石さんだった。11ヶ月後、社内の登用試験に受かり、2013年6月、イオンの直営専門店「ダブルフォーカス」のショップ店長に昇進。3ヶ月しか在籍しなかったが、「チームワーク」や「責任を持つこと」の大切さを学んだ。2013年10月、人事教育部への異動を告げられる。自己申告書にはずっと志望を出してきたが、「正直、どうしてこんなに早く願いが叶うの?」と嬉しい驚きだった。たまたま参加した社内の集まりで人事教育部長が話し、「人事教育をやりたい人はいますか?」と尋ねた瞬間、石さんはすかさず手を挙げ、「日本の接客やサービスの素晴らしさを、将来、中国のイオンで伝えたい」と言ったという。「その時の発言を覚えていてくれたのでしょうか」と語る石さんの表情は、チャンスを掴んだ喜びと希望に輝いていた。現在の担当業務は、東海地域の短大生、専門学校生、高校生向けの2015年度新卒採用。多忙ながら充実した日々を過ごしている。

### 小さな一步を糧に

社会人になってそうそう、石さんは長年の夢を果たした。中国の両親を日本に2週間招待したのだ。「初任給3ヶ月分と夏のボーナスをすべて使い果たしました」。岐阜の職場を訪

れた両親は娘のキャリアの選択を安堵の思いで見とどけて帰っていった。日本に憧れ、単身19歳で来日したときの驚きは今でも忘れられない。清潔な街並み、時刻表通りに発着する交通網、人々の礼儀正しさ。あれから10年、日本人と中国人の考え方を、双方を尊重しながら多角的に捉えられるようになった。お茶大では「多様性を尊重しながら、自分を正々堂々と主張する強さを学びました」と振り返る。イオンの女性管理職育成の方針も、お茶大での学びや自分の考えと軸は同じだ。国を超えて女性が活躍できるイオンで、石さんもアジアの一員として貢献したいと願っている。好きな言葉は「塵も積もれば山となる」。「少しずつ、焦らずに積み重ねていけば、必ず到達できる」を日々の生活のなかで実践している。グローバル時代を迎え、日本企業が外国人留学生に求める資質は、日本語力、異文化対応力、コミュニケーション力と言われるが、石さんには、それに加え、常に笑顔で前を向いて進む「ひたむきさ」が備わっている。

文責：坪田 秀子(学長特命補佐)

### わたしのオフタイム

趣味は旅行と名産の食べ歩き。休日は、「今日は外出、勉強、料理」とテーマ別にメリハリを利かせて過ごす。勉強は専らカフェに本を持ちこんで集中的に。料理は、アルバイト先のレストランで覚えたプロ並みの洋食レシピが自慢だ。

# 附属学校園からのお知らせ

## 附属小学校

### 授業研究(1年生 接続期の学習)

附属小学校では、1年生の12月までを幼稚園との接続期と考え、入学から7月までを接続中期ととらえています(前期は幼稚園)。昨年度までの接続期研究の成果と課題をふまえ、サークル活動と「えら



ぶ」の学習を大事にしてきました。右の写真のようにサークル活動では、ベンチに丸く座り、発見や喜びなど友だちに伝えたいことを語り合います。話題の中から1日の学習を立ち上げたり、学んだことをわかち合ったりしています。また、「えらぶ」の学習は、いくつかの課題から自分で選んで取り組み、課題を計画的に進めていくものです。自分で選んだ課題を最後までやり通すことは、主体的に学習し、自分の学びに責任をもつことにつながります。

6月に2週間ほど期間を設け、多くの教

師が学習の様子、子どもたちの取り組みの様子を参観しました。その期間、参観した教師がとったメモを職員室に張り出し、教員同士で共有し、

1年生の担任はメモの内容をふまえ、毎日の授業に活かしていきました。その後7月4日に、それまでに3学級それぞれが進めてきた取り組みを授業研究会でとりあげました。授業後の協議会での意見を受け



### 協働して創り出す全校音楽会



毎年11月に大学講堂で行われる全校音楽会は、保護者も招いたハレの舞台です。二学期になると、毎朝、高学年教室からは、リコーダーの音が聞こえ、低学年フロアからは元気な歌声が響いてきます。

低学年では、わらべうたなど普段の授業を生かし、カノンやオスティナートを加えたりして楽しむことを重視しています。中学年では、和楽器やリコーダーなども加え、劇仕立ての作品など、自分たちのアイデアを生かして構成します。そして、高学年では合唱と合奏を行います。5年生では、トーンチャイムやアルトリコー

ダーなども加え、互いの響きをよく聴きあうことを、6年生は選曲も教師と行い、それぞれの役割を意識して作品を創りあげていくことをねらいとしています。

休み時間には、多くの子どもたちが自主的に練習場所へやってきます。練習の過程では

様々な葛藤も起きますが、やがて相手を信頼し合い、息のあった作品にまとまっています。また、保護者も含めた共感的であたたかい聴衆によって、子どもたちの表現はより深まります。一人ひとりが聴衆の手応えを感じ、各学年の演奏で学んだことから、新たな表現欲求が生まれるのです。取り組む過程や演奏者と聴衆との関わり、多様な音楽との出会い。全校音楽会は、日常とは異なる関わりが紡がれる交響空間であり、ハレの舞台で学びが飛躍する場であると捉えています。

### たてわり班で大

11月28日(木)に、2年生と5年生が萩山の郊外園へ出かけました。目的は大根の収穫です。今年は、猛暑や秋の台風の影響もあり、生育はもう一息。太くて重い大根もあれば、細くて頼りない大根、ラディッシュのような大根もありました。

収穫の作業は、たてわり班ごとに行いました。重い大根も、2年生と5年生が力を合わせて、ほり出していました。

作業が終わった後は、2年生の保護者の方と茗鏡会の理事の方が作ってくれた大根の鍋を賞味。ほりたての大根の鍋は





## 附属学校園での出来事 (2013年10月～12月)

### 【いずみナーサリー】

#### 10月

- 保育臨床実習
- ピクニック(2歳児)
- 避難訓練

### 【附属幼稚園】

#### 10月

- 運動会
- 避難訓練
- 誕生会
- 5歳児さつまいも掘り(郊外園)
- 3歳児遠足(小石川植物園)
- ハロウィン&さつまいもパーティー(5歳児による活動)
- 創立記念の集い(和太鼓演奏鑑賞)

#### 11月

- 避難訓練
- 誕生会
- 5歳児遠足(教育の森公園・占春園)
- 4歳児散歩(構内)
- 入園検定
- 筑波大学附属大塚特別支援学校幼稚園の子どもたちとの交流
- 創立記念日(休園)

#### 12月

- 誕生会
- 餅つき
- 終業式・全体保護者会

#### 11月

- 第3回ナーサリー同窓会
- 保育参観
- 子どもの世界をのぞいてみよう～ナーサリーの子ども達の遊びに触れてみよう～
- 保護者会

### 【附属小学校】

#### 10月

- かがみ会バザー
- 学力テスト(5年)
- 給食試食会(保護者約70名)
- サツマイモほり(3、4年)
- 授業参観(3、6年)
- たてわり給食
- 校外学習(4、5年)
- 留学生との交流会(6年)

#### 11月

- 秋まつり(1年)
- 校外学習(2年)
- 校外学習(4年、5年帰国)
- 授業参観(2、4、5年)
- 児童理解の会
- 避難訓練
- 音楽会
- 大根ほり(2、5年)

### 【附属中学校】

#### 10月

- 前期期末テスト
- 後期開始
- PTA5附属講演会
- 郊外園(サツマイモ収穫)(1年)
- 学力テスト第4回(3年)
- 芸能鑑賞教室(演劇)
- 授業参観期間
- 生徒会選挙
- 学校説明会①

#### 11月

- 公開研究会
- 学校説明会②
- 生徒会役員任命式
- 避難訓練(不審者対応)
- 面談期間
- ベトナムから中学生訪日団来校
- 中間テスト(3年生)
- 文化教養部公演会
- ファミリーの会
- 校外学習(横浜散策)
- 創立記念日(生徒休校)

#### 12月

- 中間テスト(1、2年生)
- 附属高校連絡試験
- マラソン大会

### 【附属高校】

#### 10月

- 2学期中間考査
- 全附属高校部会研究会(東大附属)
- 台北一女交流事業(生徒22名、教員2名、台北訪問)
- 郊外園(サツマイモ収穫)(1年)
- 学力テスト(3年)
- 第64回ダンスコンクール

#### 11月

- 関関連研究大会(横浜)
- 学力テスト(3年)
- 第18回公開教育研究会
- 保護者授業参観日・実習生参観
- 創立記念日

#### 12月

- 2学期期末考査
- 教養基礎英語Ⅰ・Ⅱ 特別講義
- 教養基礎数学Ⅰ 特別講義
- 東工大ウインターレクチャー
- 防災講演会
- 球技大会
- 首都大学東京理系女子応援プロジェクト(1年)
- お茶大附属高校生向けキャリアガイダンス
- 地理特別授業ジョイセフ講演会(1年)
- 人権研修会(2年)
- 2学期終業式



止め、実践を振り返り、さらに日々の授業に取り入れていきました。学びのさまざまな場面で、教師がどうかかわっていくかということも、授業研究を通して、さらに考えていきたいと思っています。

## 根ほり(郊外園活動)



たいへん美味で、4杯もおかわりをした子がいたそうです。

2年生は、11月6日(水)に校外学習で郊外園を訪れています。このときは、生育中の大根の観察だけでなく、里芋の収穫とほうれん草の苗の植え付けも体験しました。

28日に改めて郊外園を訪れ、少し大きくなったほうれん草の観察、記録もすることができ、たいへん有意義な1日でした。

## 附属学校園からのお知らせ

# キャンパス点描



**第64回徽音祭が ベストオブ学園祭2013を受賞!**

## 「平成 25 年度 OG と在校生との交流会 —face-to-faceで語ろう—」を開催しました。……………

2013年11月27日(水)に「平成25年度OGと在校生との交流会—face-to-faceで語ろう—」が本学にて開催されました。今回が2回目の開催となる本交流会は、在校生・卒業生・教職員のネットワーク構築を目指した大学主催のイベントです。

今回は初回開催時の参加者数約70名を上回る、約100名の在校生・卒業生・教職員に参加いただき、在校生と卒業生、または卒業生同士の交流に料理を楽しみながら花を咲かせていまし

た。また、会の最後には在校生・卒業生で校歌「みがかずば」を歌う一幕も。

交流会後のアンケートでは、卒業生からの「在校生の就職活動の一助になればと思った。」「各界で活躍するOGとの交流も図りたいと思った。」との声や、学生からの「非常に有意義な時間となりました。普段なかなか社会人の方と話すことがないため新鮮でした。人生の先輩としてアドバイスを頂き、ためになりました。」

といった声もあり、在校生・卒業生ともに満足度の高い交流会となりました。

交流会は次年度以降も引き続き開催の予定です。



## 第64回徽音祭を開催いたしました。……

2013年11月9日(土)・10日(日)の2日間にわたって、第64回徽音祭が開催されました。今年のテーマは「Girls be Keen on "Kiin祭" ～お茶大にアツくなれ!!～」。天気にも恵まれ、在学生だけでなく、卒業生や他の大学の学生、地域の方など幅広い方にお越しいただき、昨年の来場者数を上回る25,000人を越える方々に来場いただきました。

在学生による模擬店や展示、ステージ発表はどれも工夫を凝らした内容で大変にぎわっていました。他にも実行委員企画の「水コン」「お茶パラ」、「ゼミ発表」など、お茶大生の様々な面をアピー



ルする企画も多く、来場者からは「授業以外でのお茶大生を見ることができてとても楽しかった」との声も。また、受験生を対象にしたキャンパスツアーは、在学生だけでなく、本学の同窓会組織である桜蔭会の方々とも協力して実施。学生だけでなく卒業生も一丸となって徽音祭を盛り上げました。

ダイヤモンド社が運営するWebサイト：メンター・ダイヤモンド主催の「ベストオブ学園祭2013」において、お茶の水女子大学第64回徽音祭が大賞を受賞しました。今年度エントリーされた学園祭は、総勢128校。徽音祭はその中で大賞の他、2つの賞を受賞しました。

### 第64回徽音祭の受賞一覧

|              |      |
|--------------|------|
| ベストオブ学園祭2013 | 大賞   |
| ユニフォーム部門     | 最優秀賞 |
| Web投票        | 1位   |



## 平成25年度 グローバル人材育成推進事業 「グローバル人材育成フォーラム」を本学で開催しました。……

2013年11月24日(日)に文部科学省グローバル人材育成推進事業・東日本第2ブロックイベント「グローバル人材育成フォーラム」(東日本第2ブロック会議主催、朝日新聞社共催)を、本学徽音堂にて開催致しました。本フォーラムは、各大学が連携してグローバル人材育成に取り組むことを促し、事業の一層の推進を図り、更には、国内外に向けてその成果を発信することを目的としたものです。



フォーラムの第一部、日産自動車代表取締役副会長 志賀俊之氏の基調講演『グローバル競争を勝ち抜く、グローバル人材』に続く「フロアの大学生との対話」では、学生から活発な質問がとび出しました。第二部では選抜された8大学の学生チームが「世界を変えるアイデア」をテーマに大学ごとに趣向をこらした英語によるプレゼンテーションを披露しました。会場には満場の拍手が響き渡り、熱気冷めやらぬフォーラムの閉会となりました。



## キャンパス点描



キャンパス風景  
提供:お茶の水女子大学写真部

お茶の水女子大学学报 第 239 号

▽発行日：2014年2月19日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。